

平成30年度 第1回安全教育研修実施記録

平成30年10月2日（火）、東海ノア協定に基づく平成30年度第1回安全教育研修が、日本原子力研究開発機構 原子力人材育成センターを会場に、協定加盟6事業所から9名が参加し、開催された。

研修は、前半に講義を行い、後半に各種放射線測定の実習が行われた。

【講義】

- (1) 放射線と放射性物質
- (2) 放射線と放射性物質の利用
- (3) 放射線の人体影響と放射線の防護

【実習】

- (1) 各種放射線の測定

講義では、先ず、「放射線と放射性物質」と題した、「原子と原子核及び放射線に関する基本的な知識」、「荷電粒子、中性子及び光子と物質との相互作用」及び「放射線の測定法」に関する講義が行われた。それに続き、「放射線と放射性物質の利用」と題した、「放射線と放射性物質がエネルギー利用としての原子力発電及び一般利用としての工業・工学、医療・医学、農業・農学の各分野で具体的にどのようなよう利用されているか」の講義が行われた。その後、「放射線の人体影響と放射線の防護」についての講義が行われた。

実習では、「放射線測定器の種類と特性及び取扱い方法に関する説明」に続き、外部被ばくを防護するため、①線源から離れ距離をとる、②線源を遮へいする、③被ばく時間を短くするといったことについて、線源とNaI(Tl)シンチレーション式サーベイメータを用いた実習を行った。また、GM計数管式サーベイメータを用いて、線源がどこにあるかを特定する実習及び身の回りにある放射能や放射線を確認する実習を行った。

研修後に実施したアンケートでは、「放射線と放射性物質」の講義内容について「理解がしやすい説明と表、非常に学びやすかった」との回答が1件（11%）あった一方で、「専門的過ぎる」との回答が4件（44%）あった。

「放射線と放射性物質の利用」及び「放射線の人体影響と放射線の防護」の講義内容については、「適当」との回答がそれぞれ9件（100%）であるとともに、「違った内容の講義も受講したい」及び「実践に近い話が聞けて仕事に活かせる」との回答があり、高評価であった。

「実習内容」については、「適当」との回答が9件（100%）であるとともに、「分かりやすかった」及び「測定器の仕組みが理解できた」との回答があった。

本日の研修については「有効であった」が9件（100%）であった。

本コース全般にわたっての意見、要望では、「分かりやすかった」、「ためになった」との回答が複数あった。一方、「1つ目と2つ目の講義順は逆のほうが良かったように思います」との回答があった。

【研修風景】



講義及び実習の様子

